

令和6・7年度 研究リーフレット

# 幼稚園教育要領等の実践を通して 幼児の資質・能力を育む園長の役割



東京都国公立幼稚園・こども園長会  
会長 鳥居 三千代

令和7年9月25日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会より「論点整理」が示されました。幼児教育において考えられる方向性と論点として「直接的・具体的な体験の一層の充実」「幼児教育と小学校教育との円滑な接続の推進」が挙げられています。

私たち東京都国公立幼稚園・こども園（以下、都国公立園）は、現行の幼稚園教育要領等に則り、これまでも質の高い幼児教育を目指し、①「知識及び技能の基礎」②「思考力、判断力、表現力等の基礎」③「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を着実に育んできました。これらの資質・能力を、日々の遊びや生活の中で確実に育てていくためには、園長が明確なビジョンをもち、保育者一人一人の実践を支え高め、組織力を醸成するマネジメントの役割が不可欠です。

本研究では、各園から寄せられた具体的な事例を通し、幼児の資質・能力が育まれるプロセスを検証するとともに、その価値を社会と共有できる人材育成の在り方と発信の工夫について検討を重ねてまいりました。幼児期にふさわしい体験を充実させ、資質・能力を育み、小学校教育へ学びを確実につなぐことは、私たち都国公立園の使命です。本研究の成果や提言を受け、園長がリーダーシップを発揮し、園の教育の質をさらに高め、小学校教育へ学びをつなぎ、都国公立園の存在意義を広く社会に発信していただくことを願っております。

終わりにになりましたが、アンケート調査にご協力いただきました会員の皆様、ご講演をいただきました聖徳大学 教授 河合優子先生に深く感謝申し上げます。

東京都国公立幼稚園・こども園長会



# I 研究主題・概要

## 幼稚園教育要領等の実践を通して

## 幼児の資質・能力を育む園長の役割

### 1 研究主題について

令和6年10月「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告」において「幼児一人一人の興味・関心、夢中になっていること、育ちつつある資質・能力等を捉えて意図的・計画的に環境を構成し、幼児が自発的に遊ぶ中で、主体的に自己を発揮し充実感や満足感を味わったり、友達と協同して活動する楽しさを味わったりできるようにしていくことが重要である。そして、そのことが、小学校以降の学びや人間性の基礎を育み、幼児のウェルビーイングにつながることに、今一度認識し幼児教育に当たることが必要である」と示されている。また「保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解もあることから、国及び地方自治体においては、幼児期の発達の特性や幼児期にふさわしい教育の在り方について、幼児教育施設はもとより、保護者や地域等に対する一層の普及・啓発に取り組んでいくことが必要である」とも記載されている。

東京都国立幼稚園・こども園（以下、都国立園）では、これまでも幼稚園教育要領等に則った教育を推進してきたが、さらに保育者の専門性を高めて幼児期にふさわしい教育を追求し「幼児教育において育みたい資質・能力」(※1)を確実に育み、その取組を社会と着実に共有していくことが求められている。

「幼児教育において育みたい資質・能力」を園内でどのように明確化して育み、そのことを社会や保護者が分かるように発信し理解を促してきたのかを今一度振り返り、幼児教育の更なる質の向上を目指していきたいと考えた。

都国立園では、幼稚園教育要領等の実践を通して幼児教育において育まれる幼児の資質・能力を育んでいることを分かりやすく発信するとともに、幼児の資質・能力を育む園長の役割を提言し、社会や行政からの都国立園への期待に応えていくことを目指して本研究を進める。

(※1) 本研究においては、幼稚園教育要領における「幼稚園教育において育みたい資質・能力」、及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力」について、総じて「幼児教育において育みたい資質・能力」と表記する。

### 2 研究の概要

本会会員である都国立園の全園長にアンケート調査を実施し、アンケート結果を通して園長の役割を提言する。

#### (1) アンケート調査について (令和6年度実施)

##### 【調査内容】

- ・「幼児教育において育みたい資質・能力」が幼児に育まれていることがよく分かる事例の収集
- ・「幼児教育において育みたい資質・能力」の実践について、取組状況や人材育成の状況に関するアンケート
- ・「幼児教育において育みたい資質・能力」を育んでいることの発信に関するアンケート

##### 【調査結果の概要】

- ・各園の全ての事例(140事例)において「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力について育まれており、その内容が具体的に示されている。
- ・8割以上の園長が様々な方法で「幼児教育で育みたい資質・能力の育成」について保育の価値付け、意識付けを行っている。9割以上の園長が、保育者への指導助言の機会や保育者同士で協議する機会を設定している。
- ・園長は、「幼児教育において育みたい資質・能力」を育んでいることについて、社会と共有するために、様々な対象に向けて発信をしている。また、より伝わりやすい方法を選択、工夫し効果的に発信している。外部の理解を得ることや共有することに難しさを感じている園長も多い。

全てのアンケート内容・結果・分析及び事例はこちらの二次元コードからご参照ください▶  
(東京都国立幼稚園・こども園長会ホームページへ掲載)



## (2) 提言へ向けて

アンケート結果の分析・考察を通して、次のような課題が導き出された。

- (1) 人材育成においてどの保育者も経験年数に応じて「幼児教育において育みたい資質・能力」を意識した保育を実践できるようにし、保育の質を向上させていくには、園の組織力を活用していくことが必要である。さらに、そこで得た保育者の学びと都国公立園の保育の質の高さを社会と共有し、保育者一人一人の立場や経験に応じて発信する機会をより工夫することが求められている。
- (2) 「幼児教育において育みたい資質・能力」を育むことの重要性を社会と共有し、地域全体の幼児教育の質の向上を目指していくために、より効果的な発信の工夫をしていくことが必要である。

そこで、次の2つについて提言する。

### 提言1

#### 幼児教育において育みたい資質・能力について理解を深め保育を充実させるとともに、社会と共有していくことのできる人材を育もう

- ①それぞれの職層やステージに応じた役割をもたせて組織力を高めるとともに保育者が幼児教育において育みたい資質・能力について理解を深め、保育を充実できるようにしよう
- ②幼児教育において育みたい資質・能力を保育実践から語り、社会と共有できる人材を育もう

### 提言2

#### 相手に応じて、分かりやすい発信の工夫をしよう

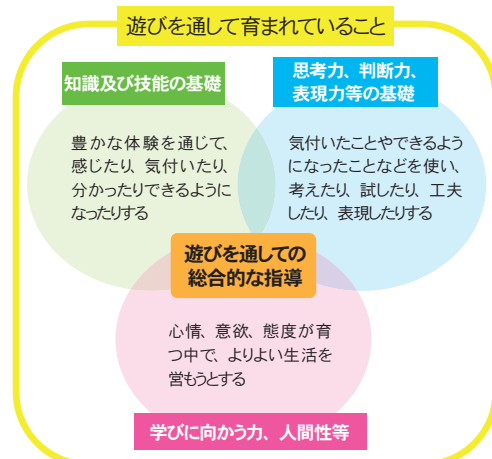
- ①【保護者に向けて】子どもの育ちを実感し共感を得られるように、遊びや生活の様子、育んでいる資質・能力について分かりやすく伝えよう
- ②【小学校に向けて】「遊びを通した学び」の重要性や幼児期の学びが小学校につながることについての理解が促進されるように伝えよう
- ③【地域に向けて】地域とのつながりを通して、地域と共に歩む幼稚園としての存在意義を伝えよう
- ④【行政に向けて】文部科学省等の資料やデータも活用しながら分かりやすく発信し、幼児教育の重要性や社会的価値についての理解を深めてもらえるように伝えよう

## II 研究の内容

### 1 実践事例の分析について

アンケート調査では「幼児教育において育みたい資質・能力」が幼児に育まれていることがよく分かる日頃の保育での実践事例を募集した。質問シートの回答例の影響などを受け自然科学的な内容が多いなど偏りが見られたものの、ごっこ遊びや造形遊び、運動的な遊びなど多様な内容の140の事例が集まった。

全ての実践事例から「幼児教育において育みたい資質・能力」の3つの柱である「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の視点で遊びを通して育まれている内容を探り、表(※2)にまとめた。そこから140事例のどの事例においても、幼稚園教育要領等に記されている「幼児教育において育みたい資質・能力」の3つの資質・能力が、遊びを通して総合的に育まれていることを確認できた。さらに、集まった実践事例からは、そのための環境の工夫や保育者の援助がなされていることが分かった。



140の事例において、3つの資質・能力が遊びを通しての総合的な指導の中で育まれていることのイメージ図(参考)平成30年3月 幼稚園教育要領解説

(※2) 前頁記載の二次元コードからご参照ください

## 2 提言について

### 提言 1

幼児教育において育みたい資質・能力について理解を深め保育を充実させるとともに、社会と共有していくことのできる人材を育もう

アンケートの結果より、園長は、様々な方法で「幼児教育で育みたい資質・能力」について保育者の保育を価値付け、意識付けていることが分かった。保育者は、3つの資質・能力の観点から幼児の育ちを適切に捉えられるようになることにより、保育の面白さや手応えを感じ、より主体的に保育に取り組むようになる。

そこで、園長が園の組織を十分に活用し、様々な職層の保育者・保育関係者の人材育成に取り組んだ事例を紹介する。

①それぞれの職層やステージに応じた役割をもたせて組織力を高めるとともに、保育者が幼児教育において育みたい資質・能力について理解を深め、保育を充実できるようにしよう

### 事例 「レモンプロジェクト」

A園では、環境をより意図的・計画的に生かせるような工夫を行っている。経験年数や担当クラスの違う保育者・保育関係者同士の複数チームに分かれ、各チームのリーダーが中心となって進めている。この年、園庭のレモンの実が豊作であったことから「レモンプロジェクト」として新たな取組が始まった。

レモンの実が大きくなってきたわね。  
子どもたちと一緒に何かできないかしら？



園長

それぞれの保育者・保育関係者に役割を  
もたせることで力を発揮してほしいわ

**ミドルリーダー**には：若手保育者に分かりやすく提案をしたりモデルになったりしながらプロジェクトをリードしてほしい

**栄養士**には：調理や会食など、収穫したものを生かすための提案をしてほしい

**若手保育者**には：視野を広げながら計画的に実践し、経験を積み重ね保育を充実させてほしい

**副園長**には：園の取組の様子や成果を子どもたちの姿を通して発信してほしい



ミドルリーダー

#### チームで意図的・計画的に 保育を進める

チームで話し合い、まずは子どもたちに「レモンが大きくなってきたけれどどうする？」と投げ掛けてみました。「食べる」「絵を描く」などの意見が出たので、アイデアを付箋に書き掲示できるようにしたところ、子どもたちがどんどんアイデアを広げていきました。「レモンプロジェクト」として、意図的・計画的に保育を行い「3つの資質・能力」で子どもの育ちを確かめることで、自分たちも高め合うことができました。



栄養士

#### 専門性を発揮して保育に貢献する

これまでも園で収穫したものを食べる機会がある度に先生方から相談があり、様々な提案をしてきました。レモンは香りを楽しんでもらいたいと思い、給食のフライのソースにしました。どの年齢の子にもおいしく食べてもらえたようです。レモネードも好評でした。家庭でも話題にしてくれていることです。食を通して体験を豊かにするために今後も頑張りたいです。



若手保育者

#### 保育の面白さを感じる

これまで園庭の草花を見ても自分自身が関心をもつことがあまりありませんでした。子どもたちがレモンに愛着をもち、様々なことに気付いたり考えたりする姿を見て、自分も調べたいという気持ちが高まりました。園庭の環境をどう遊びに取り入れていくか考えることが楽しくなりました。ドキュメンテーションや学級だよりを作る際のポイントも分かってきたことがうれしいです。



副園長

#### 機会や方法を工夫し発信する

保護者会や評議員会では、園生活の様子を写真や動画で紹介しています。いつも「3つの資質・能力」の視点で語ることを意識しています。「レモンプロジェクト」は、主に取り組んだ5歳児だけでなく、3、4歳児や乳児クラスの子どもたちにも興味・関心が広がりました。園で経験したことを家庭でも話題にしているようで、保護者の方からも質問されることが増えました。



「レモンプロジェクト」は園全体での取組となり、園と家庭との循環も生まれていたわ

#### この事例のポイント

- \*保育者同士で育ち合うことができるよう、職層に合わせた育成のねらいをもつ。
- \*実践から「資質・能力」を捉え直し、理解を深めるための助言や価値付けをする。

## ②幼児教育において育みたい資質・能力を保育実践から語り、社会と共有できる人材を育もう

**CASE ①若手保育者** 自分の保育実践に関連付けて、資質・能力を考え、語るができるように

### 週案の立案、保護者向け掲示物の作成の場面で

若手保育者が「3つの資質・能力」を意識できるよう、週案の作成時に幼児の育ちを幼稚園教育要領等の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(以下「10の姿」)で振り返ることを促した。しばらくして、先輩保育者から保護者向けの掲示物を作るのはどうかという提案があった。



**若手保育者**

④週案を書く時に幼児の育ちを捉えやすくなり、保護者にも伝えたいくなりました。

**先輩保育者**

③伝えたい出来事があったら、写真に、子どもの育ちを「10の姿」と結び付けて書いた付箋を付けて、掲示物を作成するのはどうでしょうか。

**管理職**

①週案で「10の姿」を活用してみても、どうですか。

②情報は多すぎず、月に一度くらいの頻度で負担は少なく、やってみるのはどうかしら。私たちも作成に協力していくわ。一緒にやってみましょう。

#### この事例のポイント

- \*様々な場面や方策に関連させ合いながら、若手保育者を育成する。
- \*負担なく取り組めるよう、園長が頻度や方法を調整する。

このような機会を生かしていきましょう

- 保育記録作成
- 指導計画立案
- ドキュメンテーション作成
- 園内研究会
- 個人面談
- 学級懇談会 など

**CASE ②ミドルリーダー** 相手を意識し、相手に合わせて資質・能力を語るができるように

### 幼保小研究会に向けた準備の場面で

近隣の小学校・保育園に園内研究会への参加を呼び掛け、10名程の先生方が参加してくれることになった。保育観察後の協議を効果的に進めるため、研究主任は観察シートを作成し準備を進めた。



**研究主任**

①研究の視点を入れて、観察シートを作ってみたのですが…

**管理職**

②幼児期の教育では「3つの資質・能力は単独で育まれるものではない」ということを意識しもうよい機会になるのではないかしら。

③研究テーマ(体を動かす遊び)に関連付けると、協議の話題が運動の技能的な面に偏らないかと心配です。

④参加者から出た話題をきっかけに、その場面で見られる「思考力、判断力、表現力等の基礎」や「学びに向かう力、人間性等」について、あなたの考えを話してみるといいわね。

#### この事例のポイント

- \*共有したいことや伝えたいことを事前に整理する。
- \*具体的な幼児の姿をもとに、分かりやすい言葉で伝える。

このような機会を生かしていきましょう

- 保護者会
- 園運営連絡会
- 未就園児の会
- 園内研究会
- 幼保小研修会
- 他校種との交流
- ホームページ記事作成 など

※相手を意識した発信の具体的な工夫は提言2①~④を参照。

## 園長の役割

→園内の様々な立場の保育者・保育関係者が関わり合いながら、組織的に取り組む機会を提供する。

保育後のカンファレンス、園内研究会、週案会などで、様々な保育者・保育関係者が意見を出し合いながら子どもの育ちを捉え、資質・能力について理解を深める機会を意図的につくる。

→職層やステージに合わせて、子どもの育ちから資質・能力を捉える視点をつかめるようにする。

- ・若手保育者には、学級の幼児の記録や保護者への発信など、若手保育者が直接関わっている人を中心に伝えられるような機会を設ける。
- ・ミドルリーダーには、自身の積み上げてきた経験や知識を基に、語る相手の共通点や関心事に合わせて発信できるように指導する。

## 提言2

### 相手に応じて、分かりやすい発信の工夫をしよう

アンケートの結果より、有効的な発信方法として写真・動画・配信アプリケーション等が挙げられた。また、効果的な発信をするためには「相手の視点に立つ」「共感を得られる語り口を意識する」「子どもの姿を見える化する」など、具体的な場面を捉え、解説を加えることが重要であると分かった。

そこで、「幼児教育で育まれる資質・能力」と「幼児教育の社会的価値」を発信する4つの例を挙げ、以下に示す。

#### ①保護者に向けた発信

→「育ちの実感・共感を得られる発信を心掛ける」

<p>3歳児 感覚的な学びの姿</p> <p>水を入れたら ドロドロ ベチャベチャだ。</p> 	<p>4歳児 人やものに関わる 中の学びの姿</p> <p>見て！ここ掘ったら道 が大きくなったよ！</p> <p>私もやってみよう！</p> 	<p>5歳児 友達と協同、 試行錯誤、 探究する学びの姿</p> <p>水を流すには どうしたらよ いかな？</p> <p>バケツの上に砂を 置いて樋を高くし よう！</p> 
<p>&lt;様々な気づき&gt; ものとの関わりの中で、特性に気付く</p>	<p>&lt;試す・表す喜び、気づきの広がり&gt; 友達の中で自分のしたいことを見つけて試したり、友達の遊びを取り入れて自分なりに試したりする</p>	<p>&lt;探究・好奇心の高まり、試行錯誤&gt; 友達と目的に向かって力を合わせたり、試したり工夫したりする</p>

発信のポイント：遊びの中の学びを分かりやすく伝えよう

例) 同じ遊び(砂遊び)でも、発達により学びが異なることや、経験を積み重ねて学びが広がったり深まったりすることを視覚情報を使って発信していく

#### ②小学校に向けた発信

→「遊びが学びにつながっていると分かるような発信を心掛ける」

知識・技能	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
思考力			探究的な学び
判断力	表現力	学びに向かう力、人間性等	

発信のポイント：小学校と同じ言葉を使い、共通の視点から発信しよう

### ③地域に向けた発信

→「地域の人を求める発信を心掛ける」

#### 地域での経験



地域での共通の体験を生かし、遊びが豊かになる経験

#### 地域の人とのつながり



地域へ出掛け、地域の人と関わる経験

#### 地域行事への参加



地域に愛着をもち、社会参画をする経験

発信のポイント：地域に親しみ、地域と共に育つ姿を強調しよう

園が未来の地域を担う人材の育成に寄与していることを発信する

### ④行政に向けた発信

→「幼児教育の社会的価値の発信を心掛ける」

#### 地域の幼児教育の質向上への貢献



<合同研究会、合同研修会>  
公開保育や研究などを行い、都国公立園が地域の結節点として幼児教育の質の向上に貢献する

#### 架け橋期の教育の推進



<幼保小合同研修会>  
幼稚園、保育所、小学校の連携カリキュラムの作成などを推進する

#### 幼児教育センターとしての役割



<未就園児の会>  
未就園児に対する活動、遊び場や交流の場の提供など、子育ての相談機能の役割を果たす

発信のポイント：幼児教育施設（ヨコ）と小学校（タテ）、地域をつなぐ結節点としての役割を意識しよう

### 園長の役割

→伝える相手に応じて「何を、どのように伝えるか」を整理し発信する。

- ・子どもの具体的な姿を軸に、エビデンス+ストーリー+共感で伝えることが大切である。
- ・一方通行ではなく繰り返し対話や交流の機会をもち、どのような情報を求めているのか的確に掴むことで効果的な発信につなげる。

発信先	主な目的・伝えたいこと	工夫のポイント
保護者	子どもの育ちの実感と共感	写真、エピソード、園公開（保育参観）後の解説
小学校	幼児教育と小学校教育の学びの接続	実際の姿+資質・能力の説明+対話（協議・参観）
地域	地域と共に歩む幼稚園	地域とのつながり（地域行事への参加）、地域資源の活用等の強調
行政	社会的価値への理解と支援	地域の教育の質向上における結節点としての役割を強調 公開保育・地域会議への参加・資料（動画・冊子）の提供

### III 研究のまとめ

本研究は、東京都国公立幼稚園・こども園長の協力を得て、アンケート調査結果を基に研究を進めた。幼稚園教育要領等の次期改訂を前に、今一度、現行の幼稚園教育要領等の確実な実践を振り返り、『幼稚園教育要領等の実践を通して、幼児の資質・能力を育む園長の役割』について提言をまとめたものである。

#### 1 園長の役割

- 幼児の資質・能力を育むため、保育の質の向上を目指すことのできる人材を育成するには、それぞれの職層やステージに応じた役割をもたせ保育を充実させていくことが重要である。園長には、園内の様々な立場の保育者・保育関係者が関わり合いながら組織的に子どもの育ちを捉える機会をつくることが求められる。また、保育者同士が語り合う場や風土をつくり出し、保育者自身が自分の保育実践と結び付けて子どもの育ちを語るができるよう、人材を育成することが大切である。
- 幼児教育の大切さを社会と共有するためには、伝える相手に応じて「何を、どのように伝えるか」を整理し、発信することが求められる。相手がどのような情報を求めているかを的確に把握し、子どもの具体的な姿を軸に発信することが重要である。そのためには、日頃から対話や交流を密に行い、よい関係づくりを心掛けることも不可欠である。
- 本研究を通して集まった140の実践事例から、各園において現行の幼稚園教育要領等の実践が行われていることを改めて示すことができた。このような実践の数々は、東京都国公立幼稚園・こども園としての財産であり、広く社会に共有する価値のあるものであると考える。

#### 2 東京都国公立幼稚園・こども園に求められている役割

東京都国公立幼稚園・こども園が積み重ねてきた実践や研究を継続し、成果を価値付け広く社会に発信するとともに、地域の幼児教育の中核として園相互の連携や小学校との按統における結節点としての役割を果たす。また、園長会としての組織力を生かし、これからの時代に求められる質の高い幼児教育を推進する。さらに、学校教育全体の動向を踏まえ、検討が進められている新学習指導要項等の内容に広く目を向けながら、社会や行政から寄せられる期待に応えられるよう、主体的に取組を進める力が求められている。

講演会（令和6年度・7年度各1回実施） 講師 聖徳大学 教授 河合 優子 先生

##### 令和6年度 東京都国公立幼稚園・こども園長会 課題研究部

担当副会長 中村 千絵（千代田区立番町幼稚園）  
研究部長 福原 良子（江東区立豊洲幼稚園）  
副部長 宮田 宏子（墨田区立立花幼稚園）

伊藤 栄司（千代田区）	須藤 敏之（千代田区）
浅岡 寿郎（千代田区）	穴原 江美（千代田区）
川越 裕子（中央区）	酒井 正美（港区）
山崎 高志（港区）	上村 清香（新宿区）
小島 喜代美（文京区）	山中 敦子（台東区）
金澤 里美（墨田区）	高橋 健一（品川区）
河野 由紀子（品川区）	遠藤 雅孝（世田谷区）
山路 智之（世田谷区）	女屋 旬子（世田谷区）
宮本 実利（中野区）	山口 正男（豊島区）
檀原 雅恵（練馬区）	小澤 明子（江戸川区）

##### 令和7年度 東京都国公立幼稚園・こども園長会 課題研究部

担当副会長 福原 良子（江東区立豊洲幼稚園）  
研究部長 宮田 宏子（墨田区立立花幼稚園）  
副部長 穴原 江美（千代田区立いずみこども園）

美越 英宜（千代田区）	伊藤 栄司（千代田区）
須藤 敏之（千代田区）	大川美紀子（千代田区）
中島 由美子（中央区）	川越 裕子（中央区）
小久保 篤子（港区）	山崎 高志（港区）
酒井 正美（港区）	上村 清香（新宿区）
小島 喜代美（文京区）	山中 敦子（台東区）
金澤 里美（墨田区）	三浦 公平（品川区）
河野 由紀子（品川区）	女屋 旬子（世田谷区）
宮本 実利（中野区）	見米 葉記（豊島区）
檀原 雅恵（練馬区）	

#### 幼稚園教育要領等の実践を通して幼児の資質・能力を育む園長の役割

発行日 令和8年3月

東京都国公立幼稚園・こども園長会

会長 鳥居 三千代

<事務局> 〒135-0016 東京都江東区東陽2-1-14

江東区立南陽幼稚園 TEL 03-3649-1077